

2017-18 年度 第一回中間報告書
(報告期間 2017 年 7 月 1 日～9 月 30 日)

国際ロータリー第 2710 地区
2016-2017 年度 地区補助金奨学生
三澤志織

1. 報告書提出日：2017 年 10 月 1 日
2. 基本情報
 - 氏名：三澤志織
 - 派遣ホストクラブ及びカウンセラー：広島西ロータリークラブ、梶本政明様
 - 受入ホストクラブ及びカウンセラー：Rotary Club of Monterey Pacific, Ms. Lisa Luscombe
 - 教育機関：Middlebury Institute of International Studies at Monterey
 - 専攻分野：MA in Translation

長い夏休みが明け、8月末から新学年が始まりました。今回は、2017-18年度の第一回目として、夏休み中の成果と新しく始まった新学期についてご報告します。

学業面での成果

1. 学校について

夏休みには、2年次に取り組む卒業論文の準備を進めていました。私の取り組む卒業論文は、翻訳論文といい、自分で選択した本の一部の翻訳と、その翻訳プロセスを分析、説明したコメントリーの二部構成となっています。新学期から翻訳作業に入れるように、夏休み中は本の選定を行いました。選定といっても、ただ選ぶだけではなく、候補の書籍を数点選ぶことから始まり、候補の本の試訳、試訳を基に最終候補の選定、出版社から翻訳許可の取得、というプロセスを経て、正式に翻訳素材が決定します。候補選びに苦戦したり、出版社からの翻訳許可を取得できるか少し心配したりもありましたが、なんとか順調に準備を整えることができ、無事に新学期から翻訳作業を開始することができました。卒業論文での翻訳が、通常の授業で行う翻訳と異なるのは、ひと続きの長い文章に長期間かけて取り組むことと、翻訳チェッカーを務めてくれる人を探し、教授に原稿を提出前に翻訳のチェックをしてもらう必要があるということです。私のプログラムでは、卒業論文は任意なのですが、幸い同じように論文に取り組むことに決めたクラスメイトがいるため、お互いの翻訳チェッカーをし合うことができました。範囲を決めて定期的に翻訳チェックをし合っているのですが、それが良いペースメーカーとなるだけでなく、他人の翻訳をチェックすることで、気づくことや学ぶことがあると感じています。それと同時に、改めて他の人が訳したものを批判的な視点で見ることの難しさも感じます。翻訳者としてやっていくには、他人の翻訳チェックの作業は避けて通れないことなので、卒業論文での作業を通して鍛えていければと思っています。

また夏休み中には、前回ご報告した8月末にある通訳の再試験に向けた準備にも引き続き取り組んでいました。仕事後などにジュネーブで一緒に滞在していたクラスメイトと練習をしていたのですが、クラスメイトは英語ネイティブの子だったので、お互いに英語面と日本語面でフィードバックやアドバイスし合うことができたのが良かったです。また、ジュネーブでの生活は、私の英語力を向上させる上でも役立ち、それが通訳の面でも良い影響を与えてくれました。ジュネーブでの公用語はフランス語なのですが、職場は国際機関のためコミュ

ニケーションは英語で対応できます。そのため、英語圏や英語環境の職場で働いたことがない私にとっては、とてもよい経験でした。再試験の結果については、残念ながら良い結果に至ることはできませんでした。これまで1年間頑張ってきたことや、夏休み中にも合間を見つけては練習してきたことを思うと、残念な思いや悔しい思いでいっぱいです。ですが、これまで練習や準備に一生懸命取り組んできたことは無駄ではないと思いますし、そのおかげで自分の中で成長できたことを実感しています。結果は残念でしたが、今後も諦めず勉強は続けていきたいと思います。

その一方で、夏休み中は、2年次の授業のことやその先についてじっくりと考える時間がありました。私は入学当時、翻訳と通訳、どちらも極めていきたいという思いでした。ですが、1年目を通じてだんだんとその思いが変わってきているのを感じていました。そのことをずっと夏休み中考えていたのですが、将来極めたい道考えた時、2年目に集中するべきなのは翻訳だと気づきました。1年目の授業やその他の経験を通して感じたこと、夏休み中のフェローシップでの経験、そこで出会った卒業生からのアドバイス、そして教授から伺った話などから、自分は本当に翻訳が好きで、自分に合っているのも翻訳だと分かりました。それに加え翻訳の奥深さや幅広さを考えた時、今もっと集中的に取り組んでおかないと、中途半端で終わってしまうと感じたからです。そのように考えていった結果、通訳も自分に必要で勉強を続けていく必要がありますが、授業に関しては翻訳に重点をおくことにしました。

また今学期からは、TA (Teaching Assistant) という教授の補助役を任せただけになりました。仕事内容は私が所属する、通訳翻訳・ローカリゼーション管理プログラム日本語科のサイトの管理や、教授の授業の教材準備の手伝い等です。まだ始まったばかりですが、良い経験になりそうで楽しみです。

2. WIPO でのフェローシップについて

約3ヶ月間のフェローシップは、8月の下旬に無事終了しました。WIPOでのターミノロジストとしての仕事は、実際に翻訳や通訳をするものではありませんでしたが、今後翻訳や通訳に活かせる考え方や技術を学ぶことができたことが大きな収穫でした。ターミノロジーの仕事で特に大切にされているのが、物や抽象的な事柄を、まず言葉ではなく概念またはイメージで捉えることです。具体的には、例えば英語で「chair」と言われたとき、日本語で「椅子」や「イ

ス」という言葉を思い浮かべるのではなく、まず「chair」とはどういったものか、どういう特徴があるものかというイメージを思い浮かべ、それから、ではそのイメージを持ったものは日本語ではなんというだろう、と日本語で考えるということです。この chair の例は単純ですが、もっと複雑で専門的な用語になってくると、正しい対応語を探す際に、この考え方がとても重要になってきます。そしてこれは、翻訳や通訳をする際にも非常に重要な考え方だと改めて気づかされました。訳をする際には、つい文字や言葉尻にとらわれてしまいがちですが、自然で質の良い訳をするためには、イメージやメッセージを捉えてそれを別の言語で表現することが重要だからです。この他にも、本当に信用できる情報なのか一つ一つ調べきっていく作業を通して、どこを調べれば信頼性の高い情報を得られるか、などのリサーチのコツを身につけることもできました。また、日本ではまだあまり浸透していないのですが、ターミノロジーという分野の学問についても少し学ぶ機会があったのも収穫でした。さらにフェローシップの業務以外の部分でも、新しい仲間と出会えたことや、違う国で暮らすことによって様々な発見があったり、視野を広げられたことなど、3ヶ月間で得たものは多く、とても充実した夏休みを過ごすことができました。



フェローシップの同僚たちと WIPO にて

受入地区でのロータリーとの関わり

夏休み明けに、早速カウンセラーの Lisa さんにお会いし、夏休み中のことについてご報告したり、Lisa さんのことについてもお聞きしたりしました。今学期は、残念ながら授業が受け入れクラブのミーティングの時間にちょうど重なってしまい、なかなか参加はかないそうにないため、その他の行事や活動で参加できるものがあればしていきたいと思っています。

そして早速、先日受け入れクラブのボランティア活動に参加させていただく機会がありました。参加させていただいたのは、Food Bank という貧しい家庭やホームレスの方に食べ物を提供する団体を支援する活動で、Food Bank の倉

庫にて、配布用の食べ物を袋詰めする作業でした。昨年も Food Bank 関連のボランティア活動に誘っていただいたことがあったのですが、残念ながら授業と重なり参加が叶わなかったのが、今回は参加できて良かったです。また、今回は同じ学校に今年から留学されている小田さんと一緒に参加しました。小田さんとは年齢も近く仲良くさせていただいています。最近 Lisaさんと3人でランチもしました。

直面している課題、今後の目標

今学期から取り組み始めた卒業論文は、授業とは関係なく自分で作業を進めていく必要があるため、昨年よりも負荷が増え、授業とのバランス取りに苦戦しています。卒業論文ではせっかく機会なので、これまで翻訳したことのないジャンルの書籍に挑戦することにしましたが、著者の抽象的な考えの描写が頻出し、それを言葉にしていくのはなかなか難しく、納得のいくものに仕上げるのに想像以上に時間を取られてしまいます。また、授業で扱われる教材も、一段階難易度が上がり、リサーチにもさらに多くの時間が必要になりました。リサーチや訳の練り直しは、やればやるほどきりがないため、それをどのようにうまく区切りをつけて、すべてにバランスよく時間配分していくかが今後の課題です。



右・左：ジュネーブにて

